

文理大生監督作を上映

大分市のシネマ5 映画「大分ドキュメンタリー∞ 学生のまなざし」

映画「大分ドキュメンタリー∞ 学生のまなざし」が17、19日に大分市のシネマ5で上映される。日本文理大(大分市)情報メディア学科の学生が授業で撮影した6編のオムニバスで、作品の劇場公開は初めて。



「ごみ拾い」の一場面。学生の製作した六つのエピソードを上映する

エピソードの一つ「92歳戦争体験者のうた」は太平洋戦争の中で青春を送った大分市出身の90代女性が主人公。波乱に満ちた人生

を振り返りながら、短歌の創作に取り組む現在の姿を追った。また、「ごみ拾い」は適応障害を患い大分へ帰郷した元教師が、清掃活動をきっかけに立ち直ろうとする姿を見つめた。両作を監督した4年生の大塚建さん(21)



(左から) 大塚建さん、小島康史教授、河津祐輝さん

は「苦しい体験をしても人生に悲観せず、前向きに生きる人々の姿に共感して、製作の原動力にした」と明かす。

「大神の海へ回天生き残り兵の遺言」は戦時中、日出町の基地に配属された「人間魚雷」搭乗訓練体験者の証言を映し出す。監督を務めた4年生の河津祐輝さん(23)は「大分で何が起こったのか知るきっかけにしてもらえたら」と語った。

学生の指導にあたり、製作統括を務めた同大の小島康史教授は「若者らしい探究心で知りたいと思った疑問を素直に取材している。それぞれ『大分の姿』が描けていると思う。劇場で多くの人に見てもらえるのはうれしい」と話している。

(大江謙二)

戦争や人生再起 見つめ映す